

次世代型蓄電池にむけた材料革新

●日 時 2013年 2月27日(水) 10:00~16:45 終了後18:30まで交流会

●会 場 大阪市中央公会堂 地階 大会議室
(地下鉄御堂筋線/京阪電鉄「淀屋橋」駅下車<1>番出口から徒歩約5分 大阪市北区中之島 1-1-27)
会議室入口は、通り沿いのオープンスペースの階段を降りたところに会議室等の施設用入口があります。
(中央公会堂の正面入口とは別ですのでご注意ください)

●主 催 ニューセラミックス懇話会・(社)大阪府技術協会
●後 援 (地独)大阪府立産業技術総合研究所
●協 賛

日本セラミックス協会、日本セラミックス協会関西支部、日本ファインセラミックス協会、ファインセラミックスセンター、粉体粉末冶金協会、日本バイオマテリアル学会、日本物理学会、応用物理学会、日本機械学会、日本ロボット学会、電気学会、電気化学会、日本材料学会、レーザー学会、電子情報通信学会、日本真空協会関西支部、近畿化学協会、電子情報技術産業協会関西支部、KEC 関西電子工業振興センター、大阪工研協会、日本自動車工業会、日本電子材料技術協会、センシング技術応用研究会、岡山セラミックス技術振興財団、大阪府電磁波利用技術研究会、京都セラミックフォーラム、滋賀材料技術フォーラム、末踏科学技術研究会、九州ファインセラミックス・テクノフォーラム、電池技術委員会、固体イオニクス学会 (依頼中を含む)

◆参加申込方法

下記申込書をFAXしていただくか、申込書と同一内容(①~⑬)をe-mailでお送り下さい。参加費は、開催日前日までに銀行振込か下記申込み先へ現金書留郵送にてお支払い下さい。なお、払い込み済の参加費は返却いたしません。

◆参加費・定員60名

主催団体会員 15,000 円 ※今回新たに入会された方を含む
協賛団体会員 15,000 円
一 般 20,000 円

◆参加費振込先(振込手数料はご負担下さい)

三菱東京UFJ銀行 光明池(こうみょういけ)支店 普通 3927160
口座名 ニューセラミックス懇話会 会長 和田隆博
(ニューセラミックスコンワカイ カイチョウ ワダタカヒロ)

◆お申込み・お問い合わせ先

ニューセラミックス懇話会事務局

〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野 2-7-1(地独)大阪府立産業技術総合研究所内
TEL 0725-53-1919 FAX 0725-53-2332
e-mail newceramicsf@dantai.tri-osaka.jp



第40回ニューセラミックスセミナー参加申込書

送り先 FAX 0725-53-2332 または e-mail newceramicsf@dantai.tri-osaka.jp

所 属	①会社名	連 絡 先	④住所
	②所属部課名		⑤電話 ⑥FAX
参 加 者	③氏名 (以下、2人目以降の氏名)	参 加 費	⑦e-mail
			⑧参加区分 主催 協賛 一般
			⑨参加費合計 (円) × (名) = 円
			⑩送金方法 銀行振込(月 日振込予定) 現金書留
			⑪請求書 要 不要
			⑫領収書 要 不要

⑬ニューセラミックス懇話会会員以外のかたへ

ご記入いただいた内容は、本セミナーの参加申込み手続きを目的として収集しており、漏洩のないよう厳重に管理します。なお、今後ニューセラミックス懇話会主催行事への案内に利用する場合がありますが、案内が不要な場合は、右を○で囲んでください。

案内不要

●プログラム

10:00～10:05	<p>開会挨拶</p> <p style="text-align: right;">龍谷大学 工学部 教授 ニューセラミックス懇話会 会長 和田 隆博 氏</p>
10:05～10:55	<p>講演(1) リチウムイオン電池の課題とそれを超えて</p> <p style="text-align: right;">京都大学 産官学連携本部 特任教授 小久見 善八 氏</p> <p>リチウムイオン電池は優れた性能を発揮することから、民生用ポータブル電子機器用から自動車用途や電力貯蔵へとその活躍範囲を広げています。あらゆる性能面で優れた電池理想の蓄電池ですが、それは“夢”です。そこで、用途に応じた特性を強調したリチウムイオン電池が製造、使用されています。一方、リチウムイオン電池の限界をこえた Post LIB の研究・開発が模索されていますが、その方向と考え方について解説します。</p>
11:05～11:55	<p>講演(2) 革新的蓄電池にむけた自動車メーカーの取り組み</p> <p style="text-align: right;">トヨタ自動車株式会社 電池研究部 部長 射場 英紀 氏</p> <p>プラグインハイブリッド車や電気自動車を革新するため、新型電池の研究を行っている。その中で、特に全固体電池や金属空気電池などについて、構成材料や開発課題について紹介し、ニューセラミックスの研究分野に対する期待を述べる。</p>
11:55～12:50	<p>昼食休憩</p>
12:50～13:40	<p>講演(3) 次世代型蓄電池材料としての高機能ガラスセラミックス</p> <p style="text-align: right;">日本電気ガラス株式会社 技術統括部 研究・開発企画担当部長 坂本 明彦 氏</p> <p>リチウムイオン二次電池の分野では、より安全でエネルギー密度の高い電池を目指し、種々の電極、電解質材料の開発が進められている。演者らは、正極用リン酸鉄リチウム結晶化ガラス、負極用リン酸スズガラス等、ガラスをベースとする電極材料の開発を進めてきた。本講演ではこれらの電極材料の特性と構造、および電池性能との関連について述べる。</p>
13:50～14:40	<p>講演(4) 硫化物系ガラスセラミック固体電解質を用いた全固体リチウムイオン二次電池の開発</p> <p style="text-align: right;">日立造船株式会社 事業・製品開発本部 技術研究所 精密研究室 電池グループ 岡本 英文 氏</p> <p>リチウムイオン二次電池は携帯電話やノートブック PC などの携帯端末に加え電気自動車の駆動電源として使用されている。このリチウムイオン二次電池の電解質を電位窓の広い無機固体電解質に置き換えることにより、安全性の向上した次世代型蓄電池の実現を目指す開発が活発に行われている。本講演では、固体電解質の特徴を概説し、当社の開発事例を交えて全固体リチウムイオン二次電池の開発動向を紹介する。</p>
14:50～15:40	<p>講演(5) 高容量金属硫黄電池にむけた材料創製</p> <p style="text-align: right;">(独)産業技術総合研究所 ユビキタスエネルギー研究部門 主任研究員 竹内 友成 氏</p> <p>次世代の高エネルギー密度型電池の電極材料候補の一つである金属硫化物について、最近の研究開発状況を概観する。金属硫化物は、リチウム電池開発の初期段階で盛んに研究されたものの、電位が酸化物系材料に比べて低いため、研究の中心が金属酸化物に移行していった経緯があるが、近年の電池の高容量化の要求により見直されてきている。本講演では、遷移金属を含む硫化物の充放電特性や評価方法、特性改善の試みなどについて紹介する。</p>
15:50～16:40	<p>講演(6) セラミックスによるリチウム電池用セパレータの革新(仮)</p> <p style="text-align: right;">首都大学東京 大学院都市環境科学研究科 教授 金村 聖志 氏</p>
16:40～16:45	<p>閉会挨拶</p>
17:00～18:30	<p>交流会 (参加無料)</p>